

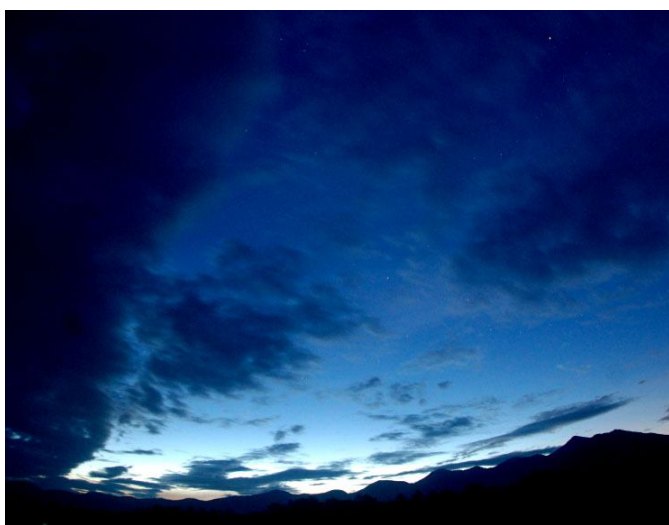
## 「夏にオリオン座を観察する(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「夏の星座」というのは、夏の夜8時～10時頃に南中またはその前後に位置し、比較的観察しやすい星座をさす。しかし、天球上の恒星(星座)は、地球の自転で日周運動をしているので、時刻が遅くなると、夏でも秋の星座が見やすくなってくる。冬でも同じことが言える。私は真冬の雲取山で、夏の星座のさそり座を見たことがある。



8月13日の朝、少し晴れ間があったので、ペルセウス座流星群を撮影しに行った。しかし晴れ間は東側の空だけで、肝心のペルセウス座は雲の中だった。しかし、流星群は輻射点(放射状に流星が飛ぶ中心点)から、かなり遠い地点を飛ぶ場合があるので、私は1時間近く粘っていた。だが、流星は1個も写らなかった。



昇る冬の星座 / 北軽井沢 / 2018\_0813 / C.Tanaka

そのかわりに、思わぬ「収穫」があった。東の空から昇る、冬の星座を撮影できたのである。時刻はすで

に午前4時を過ぎて、東の山々(浅間隠山、鷹繫山、鼻曲山など)越しの空は白んでいる。天文薄明(暗い天体から徐々に見えなくなっていく時間帯)も始まっていたが、一等星や二等星の明るい恒星はまだ肉眼で純分に見え、写真にも写った。



上の写真は8月13日の午前4時過ぎに、北軽井沢で撮影した東の空だ(2ページ目に拡大写真)。オリオン座、ぎよしゃ座、おうし座、うさぎ座などが写っているが、これらはすべて「冬の星座」である。残念ながら、オリオン座の左下の二等星(サイフ)が雲に隠れて写っていない。

理科の教科書にも、オリオン座は「冬の星座」として載っているし、オリオン座の観察は、大抵は冬休みや3学期の宿題になる。しかし、冬休みや3学期は非常に寒いので、夏休みに少し早起きをして、オリオン座を観察させると良いかも知れない。「夏休みに冬の星座の観察をしましょう」なんて、ちょっと興味が沸く課題になるだろう。

プレアデス星団  
(すばる)

おうし

アルデbaran

ぎょしゃ

エリダヌス

ベテルギウス

リゲル

オリオン

ふたご

うさぎ

